

タイトル：大門

大門または Great Gate は高野山の西口に位置しています。この巨大な木造の門は、伝統的には高野山及び壇上伽藍の入り口を象徴する建造物です。元々あった鳥居形の門が火災で崩壊し、1705年に現在の大門が建てられました。

日本の仏寺の多くには入り口に同じような門があります。しかしその大半の大門が南を向いているところ、高野山の大門は西向きです。西は仏の国西方浄土、また高野山の開祖弘法大師（774～835）が真言密教を学びもたらした中国（唐）の方角でもあります。また、大門は弘法大師の出生地であり真言宗において重要な 88 箇所遍路がある四国の方角を向いています。

大門は二段の木造で 25.1m の高さです。上の段の 3 つの扁額は合わせて「高野山」の文字を示します。また、上段を飾る色鮮やかな波の描写は大門と高野山が二度と火災で失われないようにという願いを込めたものです。

大門の両脇には巨大な仁王像があります。仁王は高野山の守護神です。大門の仁王像は未だ残る日本の仁王像のなかでも、奈良の東大寺南大門の巨大仁王像の次に大きいものです。仁王像の間の柱の木板には漢文で「毎朝、瞑想を終えた弘法大師は高野山を見守り平和をもたらす」との意味合いの表現で書かれています。これは、弘法大師は今でも永遠の瞑想を通して高野山の人々、そして日本や世界の人皆のために尽くし続けているという真言宗の信仰を表すものです。